

環境教育・学習計画推進協議会 議事録【要旨】

日時:令和7年 11 月 26 日(水)13:00~15:00

【報告内容】福岡市環境基本計画について(策定の報告)

【議事内容】今後の福岡市環境教育・学習計画推進協議会のあり方
(事務局)

福岡市環境基本計画と環境教育・学習計画を統合した「福岡市環境基本計画(第四次)」の策定について報告。

環境基本計画と環境教育・学習計画を一体的に推進していくことを契機として、協議会としての活動を終了し、今後は環境審議会および分野別の部会を中心に、環境教育・学習施策の進行管理を継続する体制案を事務局より提示。

<会長から振り返り>

- ・ H4年6月に「環境にやさしい都市をめざす福岡市民の宣言(ふくおか環境元年宣言)」を策定。
- ・ 市の宣言は、国の環境基本法(H5 年 11 月公布・施行)や環境基本計画(第一次)(H6 年 12 月閣議決定)よりも先んじている。
- ・ 環境教育・学習計画は、宣言の中にある「学ぶ」「ふるまう」「行う」「つなぐ」という重要なテーマが基本となっている。
- ・ 環境教育は、学校だけにとどまらず、家庭や地域も含めてあらゆる世代が広く学び、行動することを意味している。
- ・ その考え方は、環境基本計画も同様であり、環境教育・学習計画はいわば環境基本計画のソフトウェアのような役割を果たすものである。
- ・ そのため、環境基本計画と環境教育・学習計画を一体化しても、これまでの考え方が変わるものではない。

<委員からの主な意見>

- ・ 「学ぶ」という主体的な視点が重要。自発的な理解と行動が必要。
- ・ 計画統合については時代の流れとして自然なことだと理解した。
- ・ 「学ぶ」姿勢を持った方々への講師派遣の取組みについては、ぜひ継続してほしい。福岡市の「わくわく出前授業」などの取組みも引き続き進めてほしい。
- ・ 幼少期の体験の積み重ねが重要。子どもたちに環境と触れ合う機会を提供し、体験

を通じて学べる場づくりに関わってきた。

- ・ 協議会の意義は、横のつながり、点から面への広がりであり、統合後も、点と点を結び役割を引き継いでいくことが必要。
- ・ 外部視点が失われる懸念。環境局は連携・調整を強化すべき。
- ・ 教育委員会など局外との協働も重要。
- ・ 福岡市のこうした場に関わったのは協議会が初めて。自身の活動の社会的効果を確認でき、有意義な場だった。
- ・ 福岡市のそれぞれの取り組みをどうまとめていくかは重要な課題。
- ・ 「わくわく出前授業」で子どもたちが自然体験を通じて学ぶ姿勢を実感。
- ・ 保護者の参加・協力を得るためにも、地域・保護者・子どもをつなぎながら環境教育を進めることが重要。
- ・ 外国人に環境ルールを理解してもらうことも大切であり、外国人の通う学校での教育も重要。また、そのために小学校や中学を通じて、改めて子どもから意識を広げていくことも重要。
- ・ 昔と比べて環境に関する学びの機会は大きく増えている。
- ・ エネルギーや国際情勢等によって環境に対するウエイトは変わるが、長期的な視点では環境の重要性は変わらないため、統合後も環境教育の取り組みが薄まらないよう、PDCA をしっかり機能させることを期待。
- ・ 学校での環境教育は進んできたが、学校内からさらに家庭や地域へ広げていく必要がある。
- ・ 広報や情報提供を丁寧に行い、教育委員会と連携することで学習の機会を広げ、保護者や地域とのつながりを強化できるのでは。
- ・ 子どもを通じて大人(親)に情報を届ける方法は有効。環境局もこうした着眼点を持ち、取り組みを進めていくことを期待する。
- ・ 若い世代(20～30代男性)の環境活動への関心が高まっていると感じる。
- ・ 環境基本計画と環境教育・学習計画の統合は良い方向。
- ・ 環境問題は複合化しており、行政の横断的連携が課題。市役所内の情報共有や連携の強化を期待する。
- ・ 海外事例(ドイツのコミュニティガーデン)では、多様な立場の方が、当たり前のように「生物多様性と気候変動対策」を理由として活動しており、日本との意識差を痛感。教育や学習の機会を更に広げていくことが重要。
- ・ 店舗を拠点として子ども向け環境学習を実施。親への波及効果あり。
- ・ 従業員向け環境学習も進めている。

- ・ 販売商品にポイントを付与し、そのポイントを寄付して環境活動につなげる取り組みも実施。
- ・ 今後、福岡市や他社との連携強化、プラットフォームの活用などを通じて、顧客との接点を活かした環境学習を広げていきたい。
- ・ 団体の活動支援を行っており、約 600 団体が登録しているが、環境活動については、環境に特化した取り組みから、地域活動の中で当たり前に環境を扱う流れになっている。これは正しい方向性といえる。
- ・ 「福岡の環境はどうあるべきか」、「一人一花のような活動が環境に与えるインパクト」などの情報を市民にわかりやすく伝え、環境に関する知識を深めていくと活動の効果や参加者の満足度が向上する。
- ・ 協議会の多様な視点での意見は非常に有意義。
- ・ 市でも、「わくわく出前講座」や「企業・団体が開催する講座の紹介」などの取組みを行っているが、講座メニューの充実や広報強化などを進める必要がある。
- ・ 協議会終了後も、これまでいただいた意見を踏まえ、行政としてしっかり対応していきたい。
- ・ 環境教育本来の目的が薄れないよう、また、行政だけでは指摘しにくい問題についても適切に議論できるよう、環境審議会には歴史や背景を理解した委員の参画が重要。
- ・ 環境教育に関する情報を一元化し、各局が一丸となって取り組む必要がある。特に教育委員会との連携は引き続き重要。
- ・ 最終的には、企業・行政・教育機関が一体となり、地域に根差した環境活動を推進することが重要。
- ・ それぞれの部局にはそれぞれの考え方があり、簡単ではないと思うが、環境をメインに据えて考えていけるよう、努力をお願いしたい。
- ・ 協議会で提案した「地域環境力」の理念が計画に反映されていることを評価。引き続き推進してほしい。

【閉会】

- ・ 環境教育・学習計画推進協議会については今期で終了し、今後は環境審議会を中心に進行管理を行うことを確認。
- ・ いただいた意見を受け止め、これまでの協議会の役割や理念は行政としてもしっかり継承・対応する方針。
- ・ 事務局より、約 30 年間の協議会活動への感謝と、今後の環境施策・環境教育推進への決意表明。